

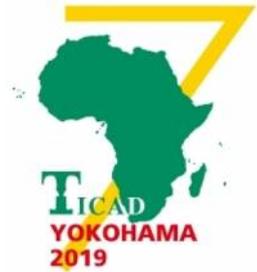


国別課題発信セミナー・アフリカ ～TICAD7に向けて～

2019年2月25日
JICAアフリカ部長 加藤 隆一



TICAD7の予定と概要



- 日時：2018年8月28日～30日
- 場所：パシフィコ横浜
- 共催者： 日本政府
アフリカ連合委員会（AUC）
国際連合
国連開発計画（UNDP）
世界銀行

1. Why Africa?

変わるアフリカ

- 2000年頃から「成長の大陸」へ，今や新興国の投資・開発も含んだ多様性に富む地域に
- OAUからAUへ，アジェンダ2063，汎アフリカ自由貿易協定，AU改革
- 主要国・地域も，アフリカとの関係を強化するパートナー会議を次々と開催

※遅々としているもの：紛争，貧困，累積債務，汚職等

今のアフリカ

- ビジネス機会 – 成長する市場，資源，イノベーションのフロンティア
- 人間の安全保障 – 貧困，保健，教育，平和など，SDGs達成の鍵
- 国際政治 – 54カ国で発言力大，世界を動かすパートナー

2. TICAD 7 and beyond

JICAの取り組み姿勢

- アフリカの経済社会開発・課題に資する幅広い分野の取り組みを継続
- 国際社会と民間セクターとのパートナーシップを拡充する
- 新たな技術や知見、ビジネスモデルなどを導入したイノベーティブな取り組みを進めていく
- 人造りも通じて、アフリカとの「信頼」を地道に高めていく

3つの開発アプローチ

◆TICAD7に向けて、JICAでは、3つの開発アプローチの重視を検討・議論中。

① STI (Science, Technology, and Innovation)

- モバイルバンキングの急拡大など、アフリカは「Leapfrog」の場として注目。
- また、SDGsはこれまでの開発アプローチの継続では達成不可とされ、食糧増産、電力アクセス、教育の質改善等において科学技術の活用が期待。
- 他方、科学技術・イノベーション分野の人材・制度等の基盤整備が遅れている状況あり。

② 民間連携

- アフリカへの民間資金は増大。また、TICAD V以降、「官民連携」は主要課題のひとつ。
- 他方、経済成長の源泉である民間セクターは、アフリカは他地域と比較して課題があり（例：制度・インフラの未整備、低生産性等）、外国民間投資の受け皿としても脆弱。PPP等の民間資金導入も弱く、政府借入を進めた結果、一部の国では債務状況が悪化。

③ 大学連携

- 高等教育はSTIや民間セクターの発展の基盤であり重要。アフリカ側も、汎アフリカ大学やAfrica CDC (Centers for Disease Control and Prevention) 等の大学・研究機関のネットワーク化構想を進める。
- 日本でもアフリカの大学への関心が高まり、研究分野は以前の現地社会・風土病等から開発を含む社会科学・自然科学全般まで拡大。

TICAD7に向けた主な論点

- 科学技術イノベーション（STI）による貢献
- 新たな官民連携のあり方（貿易・投資促進）
- 新たなファイナンスのあり方
- 質の高いインフラ
- アジアとアフリカの「連結性」
- 債務持続性
- ブルーエコノミー
- アフリカ健康構想
- **民間連携事業～課題提示型公示←今回のテーマ**
- ABEイニシアチブ「3.0」
- Sports for Africa

など

3. JICAのアフリカビジネス支援

ABE (Africa Business Education) イニシアチブ



ABEイニシアチブ第5バッチ留学生来日歓迎会（2018年9月5日）

ABEイニシアチブは、2014年以降これまでに1200名を超える留学生をアフリカ各国から受け入れ、2年間の大学院（修士課程）留学と、日本企業でのインターンシップを組み合わせ、実務的な知識・技能の習得と日本企業との関係を構築し、アフリカビジネスの「水先案内人」となることが期待されている。

受入実績（2014～2018合計）（第1～5バッチ）

応募者数	受入者数	内、日本企業推薦
9,109	1,218	223

【所属別内訳】

民間人材	政府人材	教育人材	その他
395 (32.4%)	502 (41.2%)	136 (11.2%)	185 (15.2%)

【国別内訳】

国名	合計	国名	合計	国名	合計	国名	合計	国名	合計
アルジェリア	8	コンゴ民主共和国	15	ギニアビサウ	3	モーリタニア	5	南スーダン	19
アンゴラ	1	コートジボワール	24	ケニア	150	ナミビア	7	スーダン	19
ベナン	7	ジブチ	5	レソト	5	ニジェール	5	スワジランド	7
ボツワナ	10	エジプト	74	リベリア	4	ナイジェリア	65	タンザニア	85
ブルキナファソ	15	赤道ギニア	4	リビア	1	ルワンダ	41	トーゴ	5
ブルンジ	9	エリトリア	5	マダガスカル	27	サントメ・プリンシペ	4	チュニジア	15
カメルーン	20	エチオピア	75	マラウイ	23	セネガル	60	ウガンダ	26
中央アフリカ	1	ガボン	4	マリ	5	セーシェル	4	ザンビア	28
チャド	2	ガンビア	11	モーリシャス	3	シエラレオネ	7	ジンバブエ	9
コモロ	1	ガーナ	11	モロッコ	64	ソマリア	4		
コンゴ共和国	4	ギニア	2	モザンビーク	102	南アフリカ	108		

※ 受入実績のない国：カーボヴェルデ（1か国）

【専攻別内訳】

専攻分野	人数	割合
工学	321	26.4%
経済・経営	359	29.5%
農学	111	9.1%
ICT	142	11.7%
政治・公共政策	48	3.9%
理学	77	6.3%
医療・保健	21	1.7%
その他	139	11.4%



ABEイニシアチブ留学生と日本企業の連携事例



- **名古屋大学で再生可能エネルギーについて学んだカリウキ氏は、その知見を活かし、日本企業の太陽光パネル関連事業のケニア進出に貢献しています。**
- ◆ ケニアのジョモ・ケニヤッタ農工大学で教鞭をとるカリウキ氏は、2014年にABEイニシアティブに参加。北海道大学で環境学・再生可能エネルギーについて学び、メーカーでインターンを経験しました。
- ◆ 帰国後、カリウキ氏は大学に復職しましたが、そこでケニアに進出している日本企業(ヨーロッパ・ソーラー・イノベーション社)と出会います(※注1)。この出会いの後、**同社のケニアでの事業展開に向け、現地の日照量の専門的情報を提供するなどの支援**を続けています。
- ◆ なお、**カリウキ氏は北海道大学で優秀な成績を修めています**。修士論文では、環境分野の優れた研究論文として、北海道大学から最優秀賞(沼口賞)を受賞。また、指導教官との共著論文は学会誌に掲載されました(※注2)。

※注1:ケニアに帰国後、JICAケニア事務所がヨーロッパ・ソーラー・イノベーション社の照会を受け、同社にカリウキ氏を紹介したものです。

※注2:2018年2月、指導教官(佐藤教授)と共同で進めた衛星を用いたケニアの日射エネルギーポテンシャルの経年・空間変動に関する論文が学会誌「Renewable Energy」に掲載されました。

Mr. KARIUKI Boniface Wainaina	
バッチ	第1バッチ(2014年9月～2016年9月)
出身国	ケニア
大学	北海道大学環境科学院
インターン先	パナソニック株式会社
応募時所属先	Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology(教育)
現在所属先	Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology(教育)



カリウキ氏

ABEイニシアティブ: 帰国後のフォロー

帰国研修員データベース

来日中の評価や帰国後の最新情報を随時アップデート。
帰国した研修員のデータを履歴書形式で登録企業に公開。

(企業登録 (無料) が必要: <https://www.jica.go.jp/africahiroba/business/detail/03/index.html>)

(ABEイニシアティブポータルサイト: <http://education-japan.org/africa/>)

Master's Degree and Internship Program of the African Business Education Initiative for Youth (ABE Initiative)

What is ABE Initiative? General Information Application Form JICA Contact List FAQ Information about Japan

TOP >

Welcome to the portal website of ABE Initiative!

*The contact form for inquiries has been closed.

Detailed University Information

JICA/JICEからのお知らせ

- To Ex-Participants Follow-up
- To participants, Report Submission
- To participants, Internship Information
- JICA 関係者
- プログラム関係書類ダウンロード
- 大学操作 (審査・大学情報編集)
- 大学各種申請手続き
- 登録企業様 研修員プロフィール

アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ (ABEイニシアティブ) 「修士課程およびインターンシップ」プログラム Master's Degree and Internship Program of African Business Education Initiative for Youth



3. 日本企業へのご案内

このプログラムを通じて、将来、日本企業のアフリカ諸国での活動に貢献しうる有望な若者を発掘し、つながりを持つことができます。さらに、研修員との交流により、現地の実情について知見を得ることができるため、ビジネス・チャンスの実感にも役立ちます。ご関心のある企業は、登録をしていただくことで、次の情報にアクセスいただけます。(登録は無料です。)

- 来日研修員の詳細プロフィール
- 各種ビジネスセミナー、交流会、イベントの案内、等

【登録はこちらから】

- 企業登録シート (Word/29KB)、(PDF/98KB)
※企業登録シートにご記入の上、abn-company@jica.orgにご送付ください。

また、本プログラムは次の方法でもご利用いただけます。

- 応募者の推薦 (応募時) ※インターン受入れが必須となります。
- 企業見学の受入れ (来日時、夏期休暇など)
- インターン受入れ (夏期・修士修了時)

より詳細な情報を掲載している「[ABEイニシアティブポータルサイト \(外部サイト\)](http://education-japan.org/africa/)」もぜひご利用ください。

●3月13日（水）に、東京都内（都市センターホテル、平河町）で、ABEイニシアティブ第5バッチ留学生（昨年9月来日、100名強）等とのネットワーキングイベントを開催します。

●このイベントは、留学中のABEイニシアティブ留学生と日本企業との「出会い」の場を提供すべく、毎年この時期にJICAの主催（JETRO, UNIDO共催）で開催しています。

●ネットワーキングフェアとともに、農業・栄養ビジネスに関するセミナーや、ABEイニシアティブ学生をインターンで受け入れた企業の体験談を紹介するセッションなども開催します。



アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)
「修士課程およびインターンシップ」プログラム



参加費無料 | 通訳補助あり | 入退場自由

2019年3月13日(水)
9:30~18:00

会場: 都市センターホテル
(東京都千代田区平河町2-4-1)

ABEイニシアティブ ネットワーキングイベント2019

主催: 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)
共催: 国際連合工業開発機関 (UNIDO) 東京事務所、独立行政法人 日本貿易振興機構 (JETRO)

<p>9:30-15:00 (3階コスモスホール)</p> <p>留学生とのネットワーキングフェア</p> <p>●ブース出展や見学による留学生とのネットワーキングの場</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>①アフリカ諸国の在日大使館も多数参加予定。現地の情報収集が可能です！</p> <p>② ABEイニシアティブ留学生に加え、今回は他地域からのJICA留学生(アジア、中東)やアフリカ地域の国費留学生等も13:00より参加予定。</p> </div>	<p>12:00-14:30 (6階606会議室)</p> <p>アフリカ農業・栄養ビジネスセミナー&留学生との交流会(軽食付き)</p> <p>●TICAD7へ向けた取り組み、アフリカでのビジネス展開事例を紹介</p> <p>●セミナー後は、企業・留学生との名刺交換・交流会</p> <p>※留学生も参加します。 ※申込方法は別途ご案内。</p>
<p>15:00-17:00 (6階606会議室)</p> <p>インターンシップ受入企業・モロッコ視察企業による体験談</p> <p>●アフリカビジネスへの参画のヒントを紹介</p>	
<p>17:00-18:00 (6階601会議室)</p> <p>参加企業同士の名刺交換会&懇親会</p> <p>●アフリカビジネスに関心のある企業様間の交流の場</p> <div style="text-align: right;">  <p>※写真は前回のフェアの様子です</p> </div>	

お申込みはこちらまで 下記フォームよりお申込みください。締切: 2019年2月21日(木)
URL: <https://jp.surveymonkey.com/r/GHM52CW>

■お問合せ先■
一般財団法人日本国際協力センター(JICE)
留学生事業第二部 事業調整課
ABEイニシアティブ・インターンシップチーム
TEL: 03-6838-2717 FAX: 03-6838-2711 E-mail: abe-company@jice.org




JICEはABEイニシアティブの運営支援機構です

「アフリカ地域課題提示」＋「スタディツアー」による民間連携の推進

1月下旬～2月下旬	下記「スタディツアー」実施
2月25日～27日	課題発信セミナー開催
2月下旬	アフリカ地域課題シートHP掲載

🕒 アフリカ現地課題確認調査（スタディツアー）

（注）スタディツアーの募集は終了しました。

JICAでは、2019年8月に予定されている第7回アフリカ開発会議（TICAD7）に向けて、企業の皆様のアフリカでの開発課題解決ビジネスへの取組や提案を頂きたいと考えており、今般、以下の4つの課題領域に関する「現地課題確認調査（スタディツアー）」を企画しています。

各課題への理解を深め、より具体的なビジネスソリューションの提案につなげていただければと思いますので、企業の皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

開催概要

（注）詳細は募集要項をご確認ください。

日時・場所

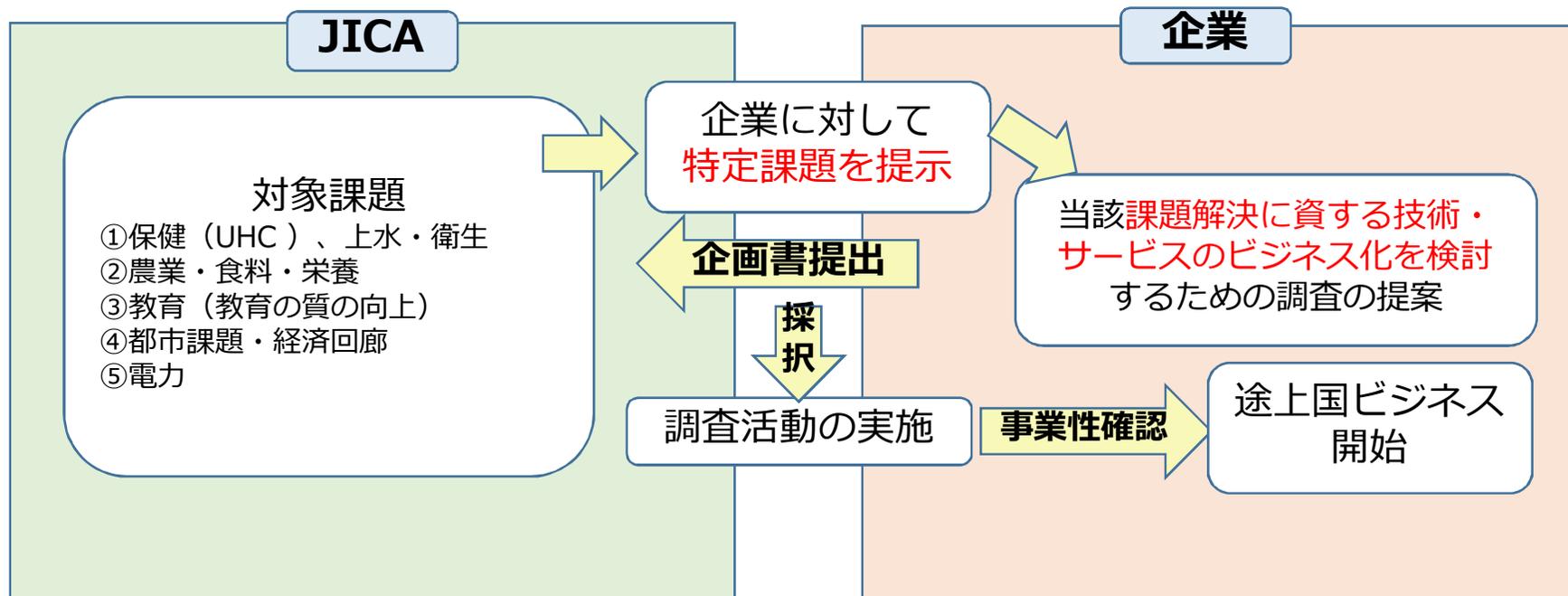
- (1) 保健（UHC）、上水・衛生：セネガル、ウガンダ（2019年1月26日～2月3日）
- (2) 農業・食料・栄養：ケニア、タンザニア（2019年2月9日～2月17日）
- (3) 教育（教育の質の向上）：エジプト（2019年2月16日～2月21日）
- (4) インフラ（都市交通・経済回廊）：ナイジェリア、モザンビーク（2019年1月28日～2月7日）



中小企業・SDGsビジネス支援事業 「アフリカ地域課題提示」

TICAD 7に向けて、アフリカの地域・国における課題（テーマ）を提示し、その解決につながるビジネスに関する提案を募る「課題提示型募集」を実施する予定

STIを横断的アプローチとして設定



JICAの民間連携事業



開発途上国課題発信セミナー 国別課題発信セミナー（ベトナム・インド、アフリカ）

- 以下日程にて開発途上国の課題・ニーズを分野別に解説する「**開発途上国課題発信セミナー**」と「**国別課題発信セミナー（ベトナム・インド、アフリカ）**」を開催いたします。
- JICAでは2019年8月に開催が予定されている第7回アフリカ開発会議（TICAD7）に向けて、企業の皆様のアフリカでの開発課題解決ビジネスへの取組や提案を頂きたいと考えており、5領域においてアフリカ向けの具体的な課題を提示と、事前に実施した「**現地課題確認調査（スタディツアー）**」の結果も報告します。
- お持ちの技術・ノウハウ、海外展開のアイデアが途上国でどう活かせるのか、JICAの企業海外展開支援事業、各種団体からの提案型事業へのご応募、事業の海外展開の検討、SDGs（持続可能な開発目標）の情報収集にあたってお役にてください。セミナー後、**名刺交換会・交流会**も開催します（竹橋合同ビル会場のみ）。
- 企業の皆様に加えて、事業実施にあたり企業を実施面でサポートすることが可能なコンサルタント、金融機関、大学関係者、地方自治体関係者、NGO等団体関係者の皆様などのご参加をお待ち申し上げます。

日時 **参加費** 無料

2月25日(月) 10:30-11:30, 14:50-15:50
2月26日(火) 10:30-16:45
2月27日(水) 10:30-16:30
2月28日(木) 10:30-16:45

分野 (上記日時で開催いたしますので、ご希望の分野を選択の上、ご参加ください)

農業・食料・ 栄養	保健・医療・ 福祉	水（都市・村 落給水）	教育	エネルギー （電力）	インフラ	水 （汚水処理）	民間セクター 開発
--------------	--------------	----------------	----	---------------	------	-------------	--------------

同時開催
課題発信セミナー
名刺交換・交流会
※参加自由
※申し込み不要

アフリカセミナー・スタディツアー報告会

- 2/25（月） 14:50-15:50：TICAD7に向けて
- 2/26（火） 10:30-11:30：農業・食料・栄養、スタディツアー報告（ケニア、タンザニア）
- 2/26（火） 13:30-14:40：保健・医療・福祉、スタディツアー報告（セネガル、ウガンダ）
- 2/26（火） 15:40-16:45：水（都市・村落給水）・衛生、スタディツアー報告（セネガル、ウガンダ）
- 2/27（水） 10:30-11:30：教育（教育の質の向上）、スタディツアー報告（エジプト）
- 2/27（水） 13:30-14:25：電力（オフグリッド・ミニグリッド地方電化を含む）
- 2/27（水） 15:30-16:30：インフラ（都市交通・経済回廊を含む）、スタディツアー報告（ナイジェリア、モザンビーク）

セミナー会場

※竹橋会場以外はテレビ会議になります。

JICA中国

082-421-6300

<https://www.jica.go.jp/chugoku/office/access.html>

申込方法

参加をご希望の方は、以下のリンクから参加申込フォームにアクセス後、参加を希望するセミナーおよび会場等、必要事項を入力の上、お申し込みください。定員に達し次第、締切とさせていただきますので予めご了承ください。

<<参加申込フォーム>>

<https://reg18.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=mbme-risak-917ff0561d7bd9aed5271529d2b179d4>

<<申込締切>>

2019年2月20日（水） 17:00

（民間連携事業ウェブページ） https://www.jica.go.jp/priv_partner/index.html

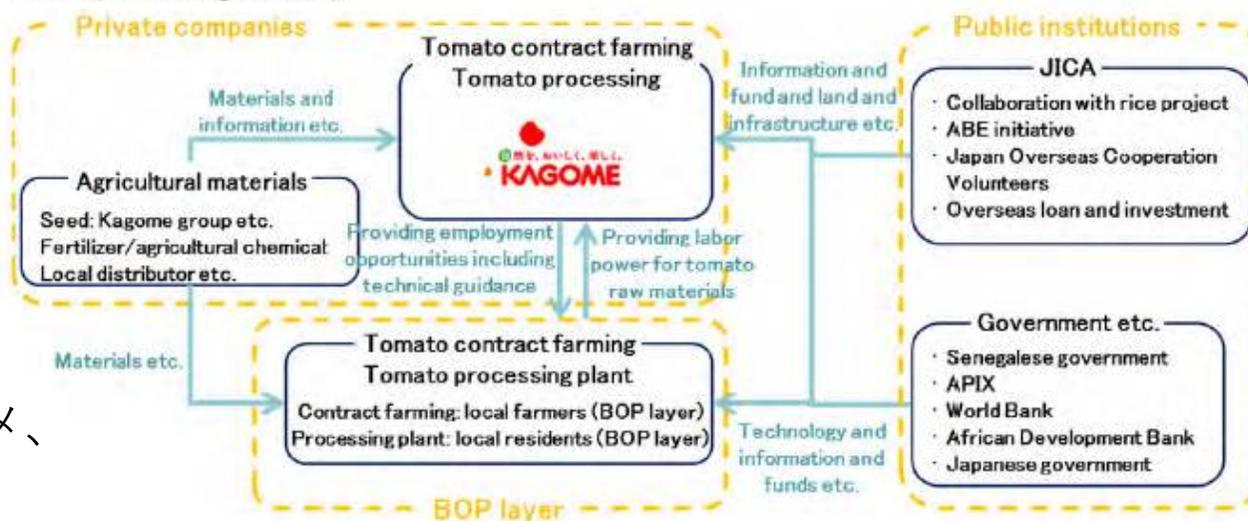
（チラシ） https://www.jica.go.jp/priv_partner/ku57pq00002avzc1-att/ku57pq00002i66xc.pdf

JICA民間連携事業を活用した日本企業の アフリカ進出事例（セネガル）

- カゴメによるセネガルでのトマト栽培・加工事業の可能性調査をJICAが支援。
JETROも「アフリカビジネス実証事業」にて支援。
- これらの調査結果等を踏まえ、2017年12月、カゴメは加工用トマトの栽培・仕入・販売を行う現地子会社を設立、トマトの現地栽培・加工を開始。



Harvesting tomatoes at the test cultivation field (Saint-Louis). Harvesting tomatoes into crates (harvesting baskets).



出典：JICA、カゴメ、
三井物産 (2017)

JICA民間連携事業を活用した日本企業の アフリカ進出事例（ザンビア）

- 関西ペイントが開発した「防蚊」塗料のザンビアでの普及実証をJICAが支援。
- 2018年10月にザンビア保健省より、同塗料の現地販売認証を取得、現地販売を開始。



ザンビア共和国 感染症対策塗料普及促進事業
関西ペイント株式会社



防蚊塗料の実証試験は現在
400軒の民家で行われている

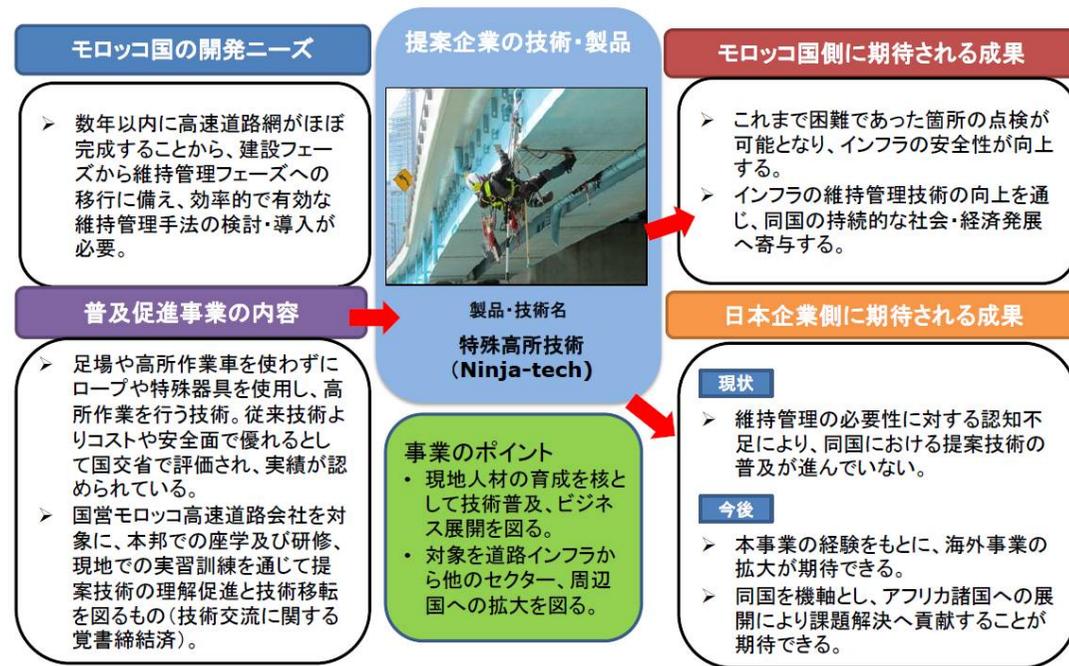
出典：日刊建設工業新聞（2019年2月13日）

JICA民間連携事業を活用した日本企業の アフリカ進出事例（モロッコ）

- 阪神高速道路会社による特殊高所技術による
構造物点検検査技術のモロッコでの普及実証
をJICAが支援。
- モロッコ国営高速道路会社より、同社の費用
負担による技術3名の実務訓練を日本で実施
するなど、モロッコ及び周辺国でのインフラ
保守事業の展開を計画中。



特殊高所技術を用いた構造物点検技術普及事業 阪神高速道路・特殊高所技術 共同企業体(モロッコ国)



1級資格を取得したモロッコ人ニンジャにより近接目視での点検作業が可能となった

出典：日刊建設工業新聞（2019年2月13日）

JICA民間連携事業を活用した日本企業のアフリカ進出事例（タンザニア、ナイジェリア他）

- トロムソが独自開発した「グラインドミル」（もみ殻をすりつぶし高温で圧着した固形燃料「モミガライト」を製造）のタンザニアでの市場調査をJICAが支援。
- これまでにタンザニア、マダガスカル、ベトナムなどで16台を納入。さらにナイジェリアで13台が決定。

案件化調査

タンザニア国 もみ殻を原料とした固形燃料製造装置の導入案件化調査

企業・サイト概要

- 提案企業：株式会社トロムソ
- 提案企業所在地：広島県尾道市
- サイト・C/P機関：KIDT(キリマンジャロ工業開発財団)、SIDO(中小企業開発機構)、ダルエスサラーム工科大学

タンザニアの開発課題

- 人口増加、経済発展、都市化の進行に伴い、エネルギー需要が増え、供給が慢性的に不足
- 特に、国民の9割以上が煮炊きに使う薪炭の利用拡大に伴い、森林が急速に減少
- 一方、主食の一つであるコメの副産物であるもみ殻をエネルギー源として活用する技術やノウハウが不足している
- 農村部の貧困率は高く、雇用創出が必要

中小企業の技術・製品

- もみ殻を固形燃料に加工する装置を持つ
- 独自の機構・表面加工により、メンテナンスの頻度を抑えられる技術を持つ
- もみ殻のすり潰し・圧縮・成形加工に係る部品製造に高度なノウハウが必要である一方、それ以外の機構は比較的シンプルなため、現地で調達・製造が可能

調査を通じて提案されているODA事業及び期待される効果

- 民間提案型・普及実証事業案件などを活用して現地パートナーにもみ殻固形燃料製造装置を導入し、メンテナンス、組み立て、製造、ビジネスモデルなどの現地化を推進
- 現地仕様で低コスト化した装置を精米所や大規模農家などに導入し、森林保全や雇用創出に貢献

日本の中小企業のビジネス展開

- コア部品と現地で調達困難な部品のみを日本から供給し、現地で製造・組み立てし、低コスト化
- 輸出するコア部品の量産効果により、日本国内でのコストダウン・事業拡大も図る



固形燃料の製造装置「グラインドミル」の引き合いが、アフリカで強まっている

出典：日本経済新聞電子版
(2019年2月20日)

JICA民間連携事業の国別・分野別実績（アフリカ）

JICA民間連携事業の国別実績件数（アフリカ）					（2019年2月現在）		
国名	農業	保健医療	環境・エネルギー	水の浄化	廃棄物処理	その他	合計
ケニア	5	8	5	6	4	10	38
モロッコ	6	0	1	0	5	2	14
タンザニア	4	0	4	2	0	4	14
南アフリカ	1	2	2	2	0	4	11
ルワンダ	6	1	0	0	0	4	11
エチオピア	2	0	2	1	2	3	10
ガーナ	2	3	1	0	0	1	7
モザンビー	1	0	1	1	0	4	7
セネガル	2	1	0	2	0	2	7
ザンビア	1	2	0	0	0	3	6
ウガンダ	3	2	0	0	0	0	5
その他	6	7	5	1	1	5	26
合計	40	26	21	15	12	42	156

JICA民間連携事業の国別・分野別実績（アフリカ）

「その他」の分野別実績

水産、産業育成、教育、運輸交通、金融、情報通信等の幅広い分野

「ブルーエコノミー」につながる取り組み（水産分野など）

- ◆ TICAD VIでもブルーエコノミーの重要性を強調
- ◆ 2018年11月、日本も共催した「持続可能なブルーエコノミー国際会議」がケニアで開催され、170以上の国や国際機関が参加。
- ◆ セネガル、モザンビーク、コートジボワール、タンザニア、モロッコ、チュニジア、ベナン、ガボン、セーシェル等で水産、港湾等の資金協力、技術協力の実績。



持続可能なブルーエコノミー国際会議
(2018年11月、ナイロビ)

4. TICAD7に向けての新たなアプローチ ～科学技術イノベーション(STI)～



アフリカ開発へのSTI導入の目的(1)

JICAはTICAD7以降、STIによりアフリカでこれまで解決困難な課題の解決や、案件の効率化、事業効果の拡大を目指します。

例えば、Disruptive Technology（破壊的技術）や科学は、開発課題に対して新しいソリューションを提供する可能性を持っています。

- Inclusive Development

革新的技術の活用により、今まで協力成果を届けることができなかった層への裨益

事例) モバイルマネーを通じた金融包摂の実現

- Faster and more affordable interventions

ICT等の活用により、同等の成果を達成するための取引費用・時間の削減

事例) モバイルアプリによる農業技術や市場情報の提供





アフリカ開発へのSTI導入の目的(2)

STI分野で日本企業のアフリカへの投資や進出を後押しすることで、日本企業のSDGsビジネスへの貢献に寄与。「3つの強み」を生かし「共創」を通じた開発とWIN-WIN関係へ。

●具体的な活動(例)

- 情報提供(政治・経済、開発課題等)や先方政府/開発援助・国際機関等関係者のご紹介
- 現地でのSDGsビジネス展開に係るご相談、共創の機会等の対応等
- 現地におけるネットワーキングの機会提供(スペース設置等を検討中)

1. フィールドの強み
 アフリカ32ヵ所の拠点を有し、活動分野の情報提供、事業実施を通じた経験・ノウハウの紹介等が可能です。

2. 専門人材の強み
 アフリカにおける事業に精通した、職員(本邦・海外)160名、専門家のべ約2,400名、協力隊員約1,200名の実績。

3. ネットワークの強み
 アフリカへの50年以上の協力で培われた他ドナー、現地政府・産業界・NGO等、多様な関係機関との「人的ネットワーク(含ABE生)」と「信頼関係」を提供できます。

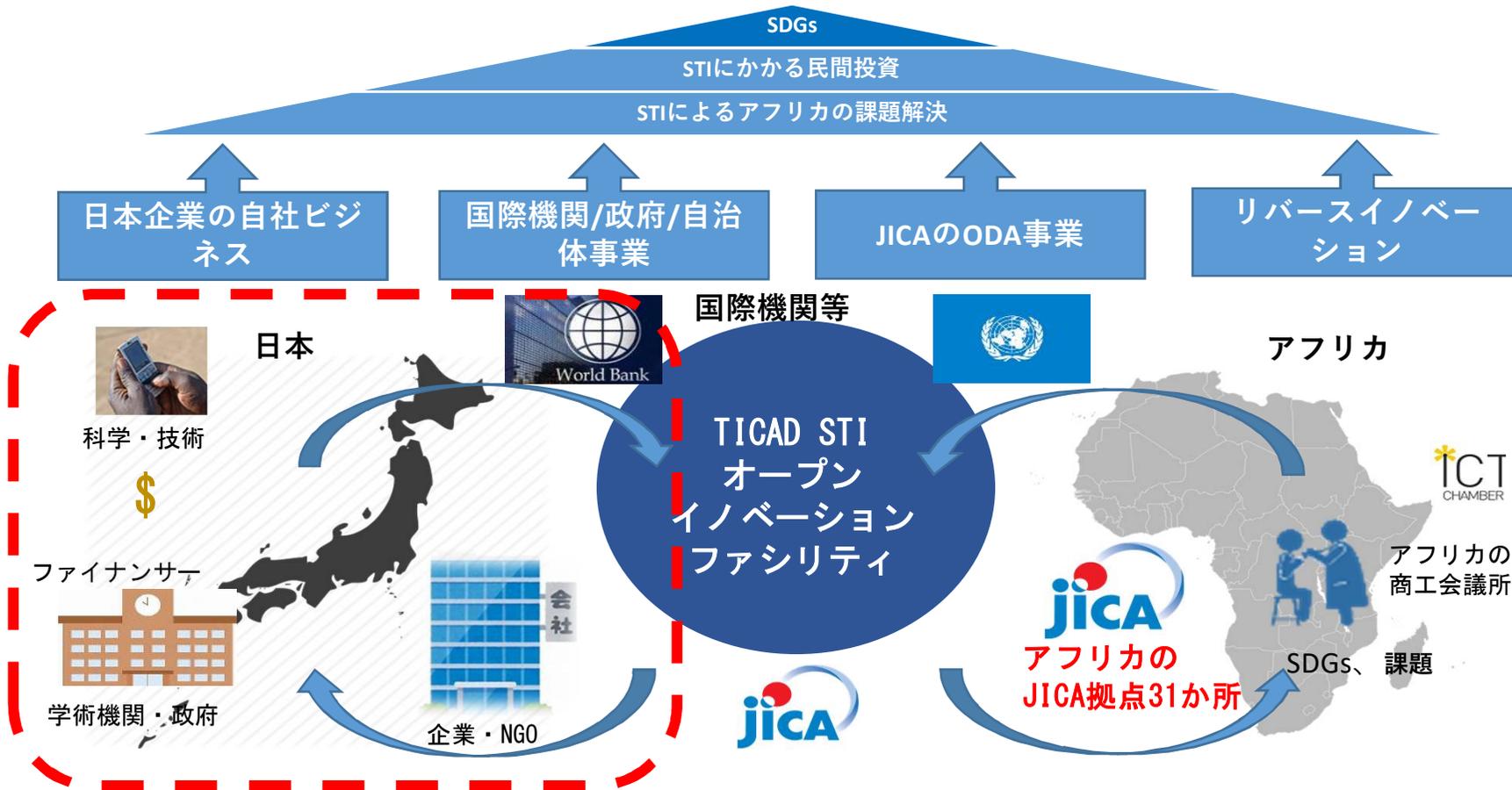
在外事務
 ● 所 23
 ● 支所・フィールドオフィス . . . 12





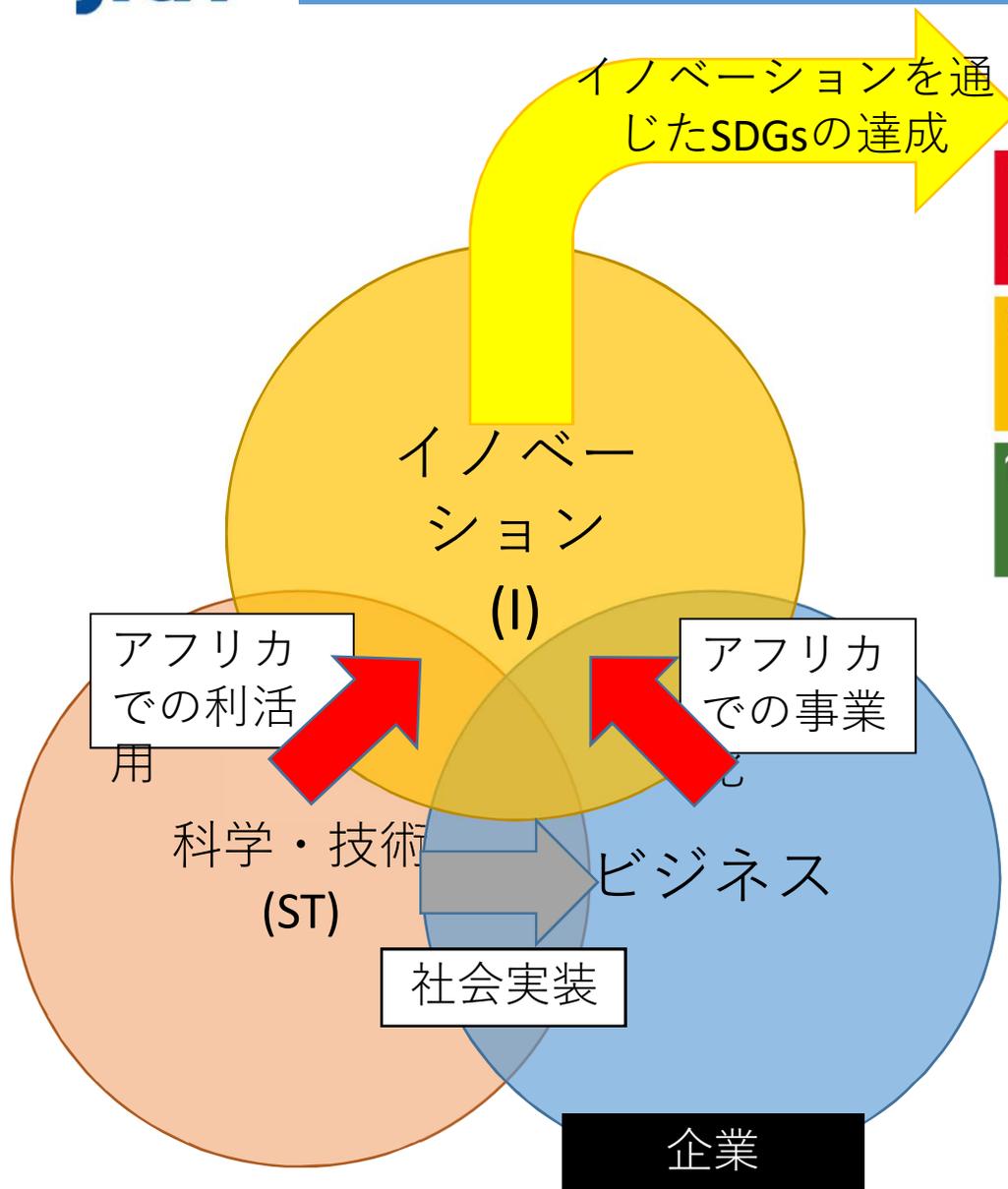
アフリカ開発へのSTI導入の目的(3)

科学・技術にかかる知見、本邦のネットワークを提供頂き、JICAが提供するプラットフォームでアフリカへと繋がることで、社会的なイノベーションを目指します。



お力をお借りしたい部分

イノベーションを通じたSDGsの達成



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



- ◆ オープンイノベーション・プラットフォームによる企業の皆様とJICAの共創でアフリカのSDGs達成に貢献
- ◆ アフリカはSDGsのソリューションニーズ=ビジネスチャンスの宝庫

(JICAがアフリカで触媒となって推進すること)



オープンイノベーションプラットフォームの検討状況

1. アイディアソンを東京（6月）、福岡（3/18、6月）で実施予定。
2. STIオープンイノベーションの現地調査（ケニア、ウガンダ、ルワンダ、ナイジェリア）を開始（2月～7月）、アフリカの知見と日本国内の知見を掛け合わせることで、案件形成の可能性を検証開始。
3. 日本国内の関係官庁、行政法人、民間企業等と連携の可能性につき意見交換中。
4. JICA以外の事業化の可能性を模索中。



モデルとすべき出口戦略 (UHC)

STI x UHC in Africa

Mobile



SMSによる感染症早期警戒システムを構築

ケニア「黄熱病およびリフトバレー熱に対する迅速診断法の開発とそのアウトブレイク警戒システムの構築プロジェクト」

Preparedness

Mobile



**SMSによる患者予約・再来患者追跡システムを構築、
妊産婦と新生児ケアに関する啓発メッセージ配信**

ナイジェリア「ラゴス州における貧困層のための地域保健サービス強化プロジェクト」

Equity

e-learning



**e-ラーニングによる保健人材の強化
(リーダーシップ、ガバナンス、保健財政分野)**

広域 (41カ国) 「アフリカ保健システム強化パートナーシッププロジェクト」

Governance

Financing

Data / GIS



保健施設データベースによる医療資源の管理・政策策定

ザンビア「保健施設センサスに基づく保健投資計画能力強化プロジェクト」

Service

Medical Device



PC・タブレット使用可能なエコー画像診断装置の普及

スーダン「民間連携事業 レキオ・パワー・テクノロジー株式会社」

Advocacy

国際会議におけるSTI取組みの発信

Transform Africa Summit 2018 於ルワンダ



モデルとすべき出口戦略

●ビルゲイツ



●ルワンダ ドローン輸血 (ZIPLINE)



●ソフトバンク ビジョンファンド

SoftBank's Son uses rare structure for \$95bn tech fund

Investment vehicle backed by Saudis and Apple is unprecedented in scale and ambition



Masayoshi Son: 'We only live once, so I want to think big. I have no intention of making small bets' © FT montage / Getty

JUNE 12, 2017 by [Arash Massoudi](#) in London, [Kana Inagaki](#) in Tokyo and [Leslie Hook](#) in San Francisco

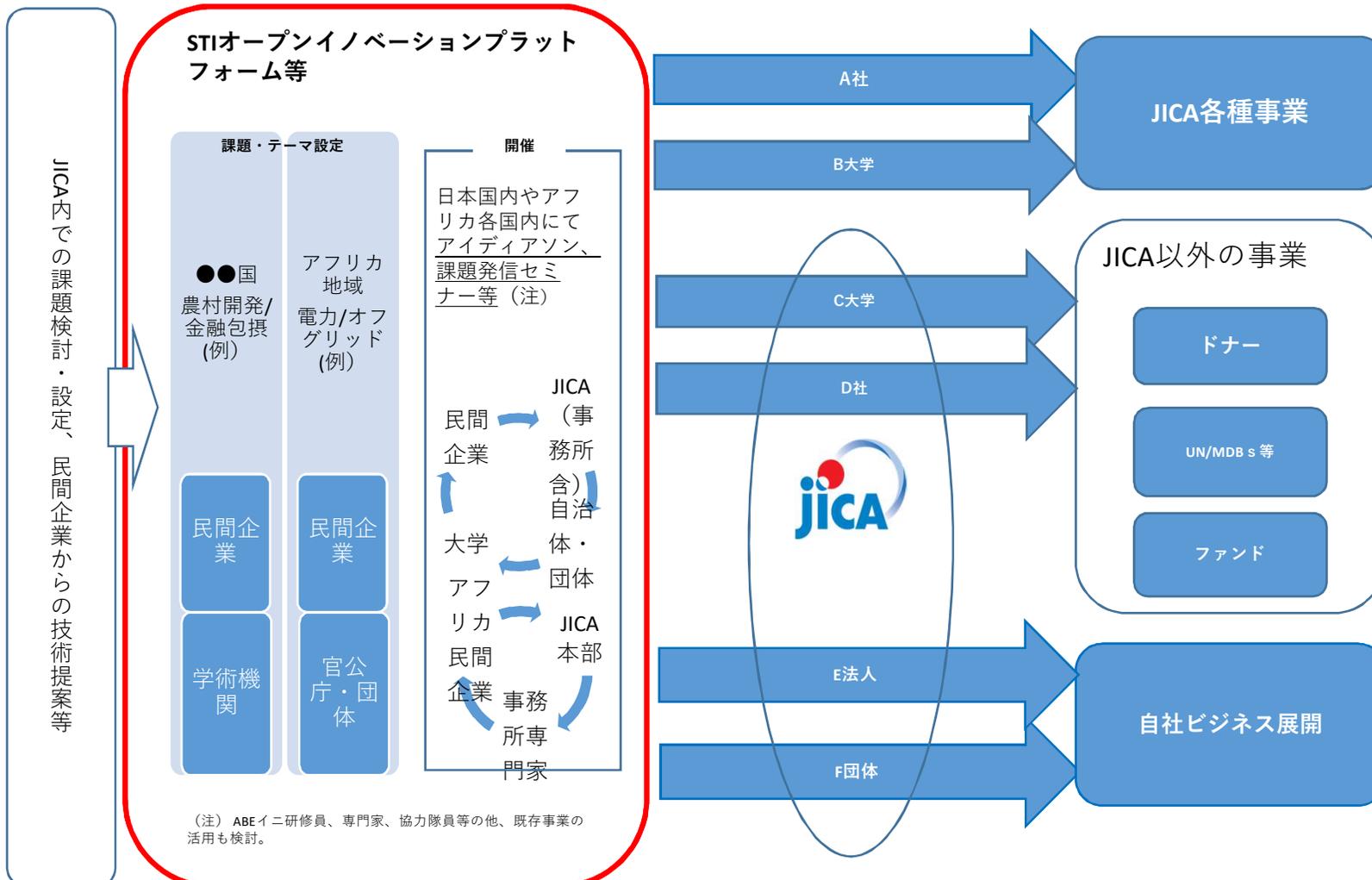
The giant technology fund launched late last year by the founder of Japan's SoftBank has only one objective: to unleash a new era of innovation backed entirely by private capital.

With Masayoshi Son at the helm and \$93bn in commitments, the size of the SoftBank Vision Fund is unprecedented and its stated ambitions are limitless.

●ケニア MPESA



オープンイノベーションのフロー



1.課題設定

2.課題解決を共に検討

3.共に実現へ (トライアル含む)

4. TICAD閣僚会合、TICAD7 官民円卓会議の概要



2018年TICAD閣僚会合開会式

(2018年10月、東京)
(写真：外務省)

2018年TICAD閣僚会合（結果概要）
10月6日～7日 於：東京

平成30年10月
外務省アフリカ部

出席者

- アフリカ52か国（首席代表：副首相・外相24名，その他閣僚・閣僚級16名），開発パートナー諸国（印，韓，中等を含む），国際機関，市民社会等が延べ約2,100名が参加。
- 外務省からは河野太郎外務大臣，佐藤正久外務副大臣，山田賢治外務大臣政務官，辻清人外務大臣政務官等が参加。

会議のポイント

- 債務持続性等援助における国際スタンダード確保の重要性を確認。
- 日本がTICAD VIで表明した官民総額300億ドル規模の「アフリカの未来への投資」は，9月時点で160億ドルを達成。対象国の債務問題がなければ，目標達成により近づいた可能性。
- ビジネス関連サイドイベント等，日・アフリカ民間セクターの幅広い参加。
- 「TICAD報告書－進捗と課題－」及び共同議長サマリー（概要を別添）を公表。

会議の概要

開会セッション 河野大臣発言のポイント

- 官民連携による人材育成・技術移転の重視。
- 国際的な援助は，被援助国の債務持続性への考慮といった国際的スタンダードに従うべき。
- 「質の高いインフラ」に基づく連結性強化や「アジェンダ2063」に示されたアフリカの経済構造転換を支援。自由貿易の重要性。
- 自由で開かれたインド太平洋を推進。法の支配に基づく海洋秩序及び航行の自由の確保が必要。
- 安保理改革や北朝鮮問題に関するアフリカ諸国の協力に謝意。

全体会合1（TICAD VI以降の開発動向と課題）

河野大臣発言のポイント

- TICAD Vで表明した最大約320億ドルの官民による支援：2017年末時点で目標達成。
- TICAD VIにおいて表明した官民総額300億ドル規模の『未来への投資』：2018年9月時点で約160億ドルを達成。ODAは着実に進捗。民間投資は2016年に減少。一部の円借款案件やその他の公的資金がここ数年間対象国の債務問題により停滞。
- ビジネス環境整備の必要性（投資協定の締結，腐敗対策，行政サービス等）。
- 債務持続性の関連で債権国・債務国の双方による返済可能性，透明性，財政健全性の確保の重要性を指摘。1

全体会合1：TICAD VI以降の開発動向と課題

- TICADV及びVIで打ち出した取組に関し、日本を含む参加者による取組の実施状況を確認。TICAD 7に向け、アフリカ諸国、パートナー国、国際機関、民間等による取組の加速化を確認。
- アフリカ大陸自由貿易地域設立協定（AfCFTA）の署名や南スーダン、アフリカの角を含む平和構築の動きを歓迎。保健、防災、気候変動等の課題への対応、人材育成及び制度構築、債務持続性（返済可能性、財政健全性、透明性）の確保やビジネス環境整備の重要性を確認し、ドナー側及びアフリカ側双方の取組を呼びかけ。

全体会合2：包摂的な成長に向けた経済構造転換

- 成長するアフリカ経済の好機を逃さず、経済多角化・産業化促進のため、零細・中小企業（MSMEs）振興、産業育成、農業の生産性向上、科学・技術・イノベーション（STI）推進、エネルギー開発等の必要性を確認。債務持続性・財政健全性、ビジネス環境整備、技能開発等が民間投資促進の鍵。
- アフリカにおけるブルー・エコノミーの高い潜在性を認識。国連海洋法条約等に反映されたルールに基づく海洋秩序を通じた海洋安全保障・海賊対策等の重要性を強調。自由で開かれた日本とアフリカを結ぶ海洋の実現が地域全体の安定と繁栄の確保に資することを確認。

全体会合3：人間の安全保障のための健康で持続可能で安定した社会

- 人間の安全保障の実現に向け、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の推進及び気候変動の影響による自然災害への対応強化と防災、都市環境整備、教育や職業訓練を通じた若者と女性のエンパワーメントの重要性を確認。
- アフリカの平和と安定に向けて、紛争予防やアフリカ自身による課題解決の重要性を共有。

全体会合4：アフリカ域内及び域外との連結性強化

- アフリカの平和と繁栄のため、物理面（質の高いインフラ整備）、デジタル面（ICT等）、制度面（経済連携、税関円滑化等）、人材面（大学間交流、スポーツ等）の各側面について、アフリカ域内及び域外との連結性強化の重要性を確認。
- 国際港湾を含む主要なインフラが公正で開かれた透明な形で運営される必要性を認識。

TICAD7官民円卓会議

- 経団連、経済同友会、商社、金融、メーカー、中小企業、若手起業家の実務担当者レベルによるWGでの議論を経て、下記項目の提言案を準備中。

1. TICAD7に向けた決意

2. アフリカの持続的発展を実現するための重点分野・取り組み

- 経済成長を促進する投資・事業環境の整備と良い統治の実現
- アフリカ各国政府への働きかけとTICAD共催者も巻き込んだ多彩な各国の活動支援
- 多様な働きかけ手段の活用、第三国連携等多彩なパートナーシップの構築・活用
- 人々の生活及び産業活動の基盤であるインフラの整備
- アフリカの発展を担う人材育成に向けた官民連携の強化、基礎教育の充実
- 農業従事者の経済的自立に資する、農業生産性向上・付加価値増への貢献
- 日本の強みを活かした快適で健康な生活環境づくり（保健衛生・予防医療・栄養改善）
- きれいな街と健康的な暮らしの実現に向けた支援（環境問題、都市問題）
- イノベーションの促進など、新たなアフリカ支援の担い手としての、中堅中小・スタートアップ企業力を、活かす枠組み

3. 民間ニーズに即した資金スキームの提供等我が国公的支援の充実

- 円借款制度、JICA海外投融資、JBIC投融資、NEXI保険等
- アフリカ開発銀行(AfDB)やアフリカ貿易保険機構(ATI)などの国際金融機関とのさらなる連携
- 中堅中小・スタートアップ企業力を活かすための新たな支援枠組み・制度の創設

4. TICADプロセスのモデルチェンジと、官民連携の強化

ありがとうございました